

議題 1

令和 5 年 5 月 2 4 日
市民局文化スポーツ部文化振興課

広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想の策定について（報告）

1 概要

こども文化科学館は、施設の老朽化に加え耐震化も未実施であり、常設展示の展示内容は 20 年以上大規模な更新がされていません。こうしたことも要因となってその魅力が低下し、運用面での様々な改善が求められる状況となっています。

こども文化科学館に係る諸課題については、耐震及び長寿命化と併せて対応することが効果的かつ効率的であると考えられます。こうした考え方の下、市民アンケートやこども文化科学館のスタッフ、有識者等からの意見聴取、他都市調査なども踏まえつつ、展示リニューアルの方向性等を内容とする「広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想」を策定したものです。

2 広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想

資料 1（3 ページから 4 ページ）及び資料 2（別冊）のとおり

広島市こども文化科学館 展示リニューアル基本構想【概要版】

1 こども文化科学館の現状と課題

(1)現状

①施設の概要等

こども文化科学館は、昭和55年5月に、市中心部の中央公園に、「おどろき・夢・ロマン」をテーマとして、日本初の子どものための博物館として誕生した施設である。

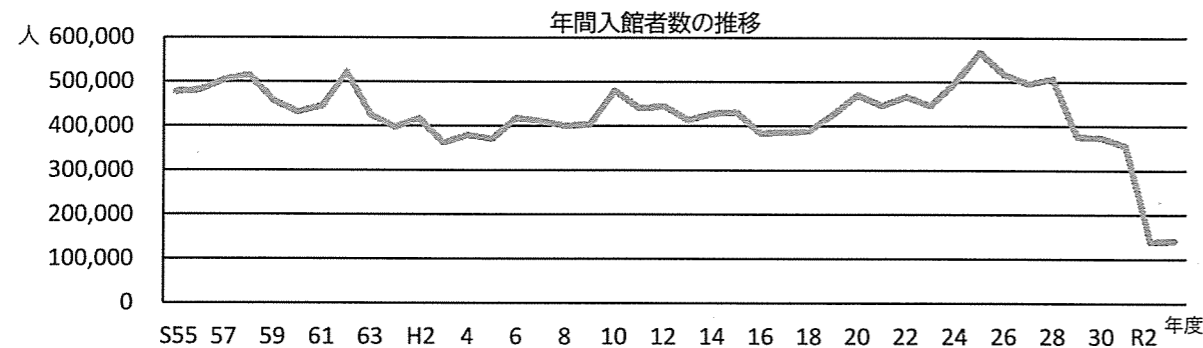
(施設の概要)

開設年月	昭和55年5月(築43年)	常設展示	展示数	70点(光、電気、力などの物理を中心とした理工系の展示)
構造	鉄筋コンクリート造 (地下1階・地上4階)		展示更新の主な経過	平成 2年3月 第1展示ホール (33年経過) 平成 6年7月 第2展示ホール (28年経過) 平成10年3月 第3展示ホール (25年経過)
延床面積	4,683.14㎡ (うち展示面積 1,037.97㎡)	プラネタリウム事業		
主要諸室	第1～4展示ホール、実習・創作室、プラネタリウムなど	教育普及事業		
				季節の天文現象や宇宙科学の最新情報、広島オリジナルの自作番組を中心に投影を行うほか、音楽コンサートや全周映画の上映なども実施
				教室事業(科学教室、創作教室など)、サイエンスショー、大人の科学談話室、ホール事業、天体観望会、クラブ活動(プラネタリウムクラブなど)

(主な事業活動の概要)

②入館者数の推移

昭和55年の開館以降、概ね40万人から50万人の間で推移していたが、平成25年度の約57万人をピークに減少傾向にある。

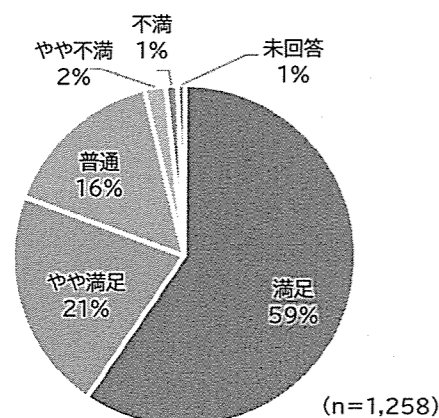


(2)アンケートの実施

常設展示の展示内容が長期にわたり更新されていないことから、今後の展示更新の検討に当たり、市民ニーズを把握するため、子どもを中心にアンケート調査を実施した。

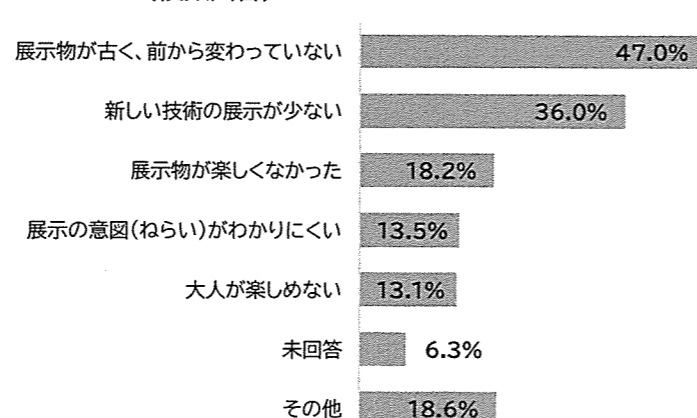
※ 令和4年8月～10月実施、回答数1,787(うち小・中学生1,500)

【問】 こども文化科学館に行ったことがある方にお聞きします。展示の内容は、いかがでしたか。



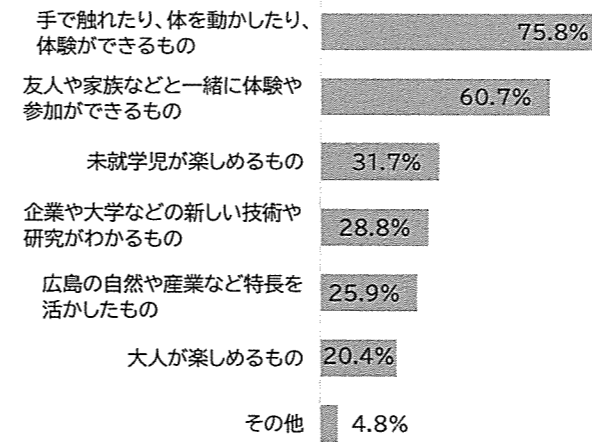
→ 回答者の約6割が満足している。

【問】 左の問で、「普通」、「やや不満」、「不満」と回答された方にお聞きします。その理由は何ですか。(複数回答)



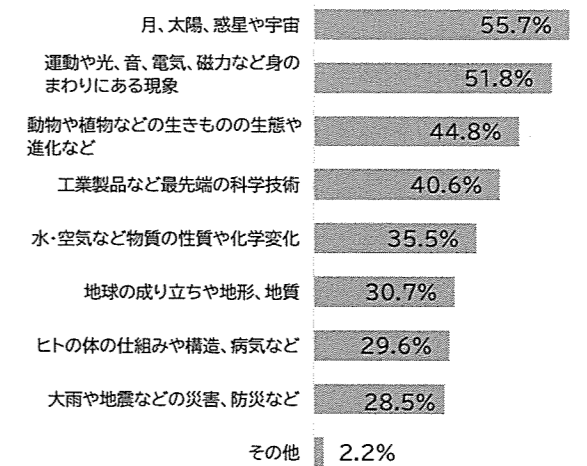
→ 「展示物が古く、前から変わっていない」という回答が最も多く、次に「新しい技術の展示が少ない」という回答が多い。

【問】 どんな展示があったらよいと思いますか。(複数回答)



→ 手で触れたり、体を動かしたり、体験できる展示へのニーズが最も多く、次に友人や家族などと一緒に体験できる展示へのニーズが多い。

【問】 科学のどんなテーマに興味がありますか。(複数回答)



→ 天文に関するテーマへの興味が高い。運動や光など身のまわりにある現象、工業製品など最先端の科学技術、物質の性質や化学変化といった理工系のテーマへの興味も高い。

(3)課題

現状や市民アンケートに加え、有識者等から意見を聴取し、次のとおり課題を整理した。

①入館者数が減少している。

年間入館者数は平成25年度の約57万人をピークに減少傾向にある。

②施設が老朽化し、耐震性能も不足している。

- ・ 施設の老朽化が進み、建物や設備に不具合が生じており、修繕を繰り返している。
- ・ 耐震診断により耐震性能が不足していることを確認しているが、耐震改修は未実施である。
- ・ プラネタリウムは、平成27年度～28年度に投影機器等のリニューアルを行ったものの、ドームスクリーンは開館以来、更新されておらず、くすみやしわ等が生じ、リニューアルによる効果が十分発揮できていない。

③展示コンテンツの魅力が低下している。

- ・ 常設展示の展示内容は、20年以上大規模な更新がされておらず陳腐化しており、最先端の科学技術に関する展示も少なく、魅力が低下している。また、経年劣化により不具合が度々生じている。
- ・ 展示の更新が不定期で部分的に行われたため、各エリアの展示テーマや館全体の展示ストーリーが伝わりにくくなっている。

④地元企業や大学等と連携した事業展開が少ない。

広島には自動車産業などのものづくり企業が集積し、理工系の学部を持つ大学もある中で、企業や大学等と連携した事業展開が少なく、広島の持つ科学技術に関する特長が十分に活かされていない。

⑤スタッフが関わる展示が少ないため展示のねらいが伝わりにくい。

スタッフが来館者に対して、ミニサイエンスショー等を通じて解説を行うことができるような展示が少なく、来館者から展示のねらいがわかりにくいなどの意見が一定数ある。



経年劣化により不具合が生じている展示

2 基本構想の策定

こども文化科学館は、施設の老朽化が進んでいることに加え、耐震化も未実施であること、また、常設展示の展示内容については、20年以上大規模な更新がされていない。また、こうしたことも要因となって、アンケート調査などに見られるように、その魅力が低下しており、運用面での様々な改善が求められる状況にある。

市内にある施設の耐震及び長寿命化の改修は、本市にとって喫緊の課題となっていることから、こども文化科学館に係る諸課題については、施設の耐震及び長寿命化と併せて対応することが効果的かつ効率的であると考えられる。

こうした考え方の下で、これまで行ってきた市民アンケートや、こども文化科学館のスタッフ、有識者等からの意見聴取、他都市調査なども踏まえつつ、展示リニューアルの方向性等を内容とする「広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想」を策定することとするものである。

なお、具体的な展示内容については、併設することも図書館等とのゾーニングなどの調整を行った上で、令和5年度に基本計画を策定する中で検討することとする。

3 展示リニューアルの方向性

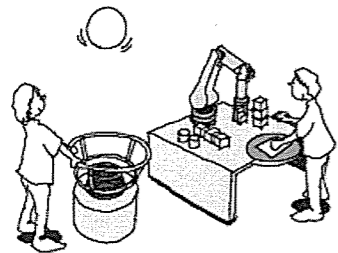
こども文化科学館は、開館以来、子どもが科学に関する学びを楽しんで行えるよう、体験的な手法を基本的な展示方針としており、リニューアル後においても、引き続き、こうした方針を継承しつつ、次の基本的な考え方と4つの視点に基づき、より魅力ある事業活動を展開していく。

■ 基本的な考え方

科学の原理・原則から
最先端技術まで
体感できる展示の充実

身近な事物・現象に関する展示を基本とし、最先端の科学技術にも触れられるよう展示の充実を図る。

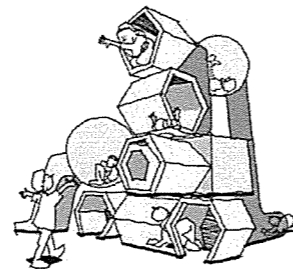
このことにより、科学の原理・原則を体感しながら学ぶ機会を提供する。



参加体験型展示の
更なる充実

参加体験型のアナログ的な展示(機械的な装置)を中心とし、「みる、ふれる、ためす、つくる、たしかめる」ための展示の更なる充実を図る。

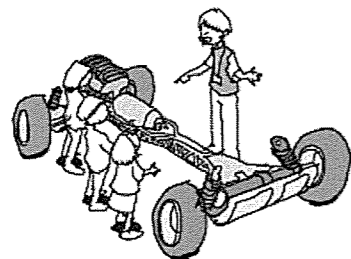
このことにより、子どもたちが何度も訪れ、科学技術への興味・関心を深め、楽しみながら探究する学びを支援する。



■ 4つの視点

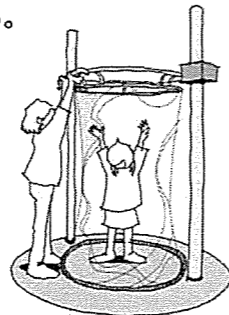
広島の魅力発信
(地元企業等との連携強化)

他都市の科学館にはない、広島ならではの魅力発信を目指すため、地元広島企業や大学等との連携を強化する。



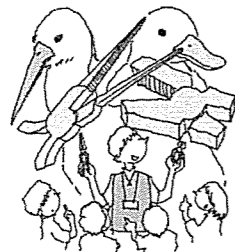
幅広い世代が科学を楽しみ、
学べる展示展開

子どもから大人まで幅広い世代が科学を楽しみ、持続的な学びを可能とする展示展開を目指すため、最先端の科学技術の紹介や、家族など複数人が一緒に参加体験できる展示手法の導入などを図る。



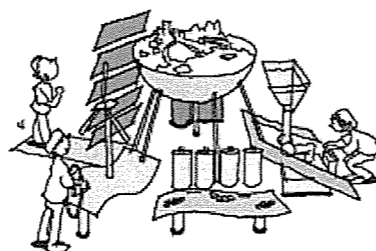
より深い学びのための交流機会等の充実

科学的な見方や考え方など、より深い学びにつながるよう、利用者との交流機会等の充実を目指すため、展示装置のみで完結するのではなく、専門家であるスタッフやボランティアなどが介在した展示解説などを充実する。



社会的な課題に対する学びの充実

「こどものためのミュージアム」として、子どもたちに地球温暖化やエネルギー問題など社会的な課題に対する学びの充実を目指すため、科学と社会や生活との関わりを実感できる展示展開を図る。



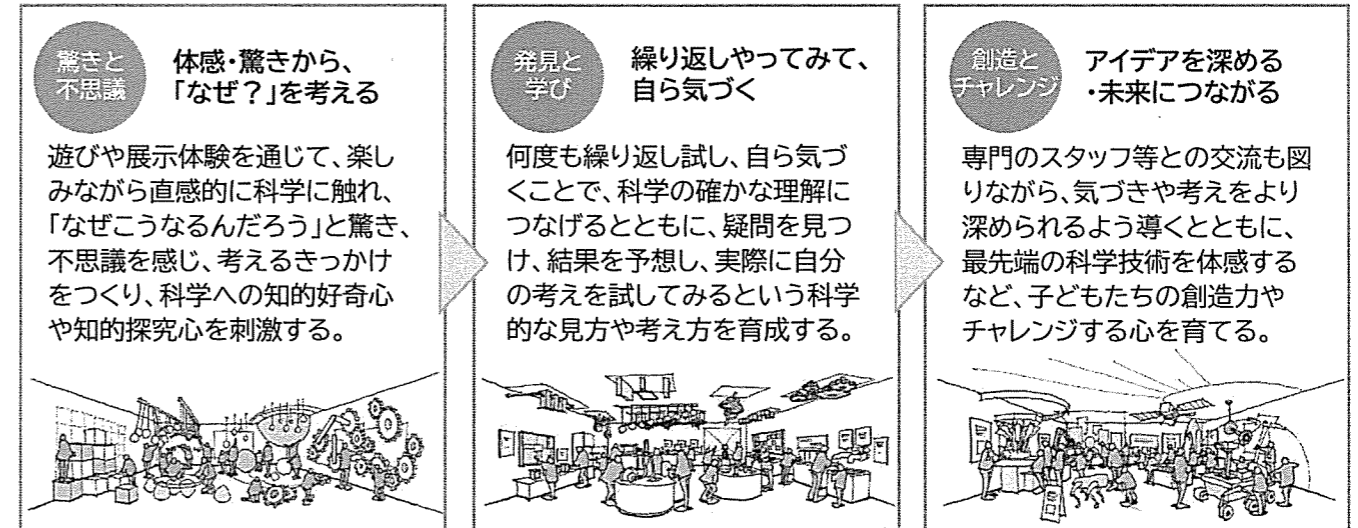
4 事業活動の展開

(1) 常設展示等

① 常設展示

- これまでの物理(光、電気、力、音、熱、運動など)や工学(ものづくり)など理工系の分野を中心としつつ、天文の分野も内容の充実を図る。また、他の博物館等と連携した取組を行い、子どもたちの学びの広がりにつなげる。
- 次の3段階の参加体験ができる展示を通じて、主体的な探究活動を促す。

(展示展開の考え方)



② プラネタリウム事業

通常の天体プログラムや星座解説に加えて、ドーム空間を活用した広島のクリエイターとの連携により制作した大人向けプログラムの上映などを通じて、幅広い利用者に対し、天文に触れるきっかけを提供していく。また、老朽化したドームスクリーンは、展示リニューアルに併せて更新を検討する。

(2) ソフト事業

① 企画展示

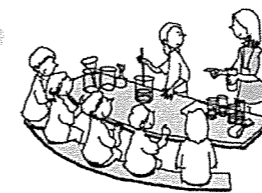
地元企業や大学、他都市の科学館などとも積極的に連携・協力を行い、科学技術に関する最新の研究成果やスポーツ科学など、多彩なテーマで企画展を開催し、幅広い世代の来館者やリピーターの増加につなげていく。

② 教育普及事業

主に次の4つのポイントに重点を置き事業を展開していく。

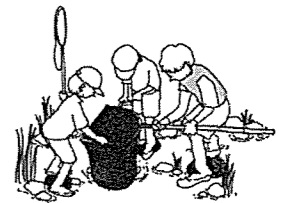
ここでしかできない
体験の展開

- 例) テーブルサイエンス方式の科学実験やフリーワーク
- 例) 地元企業・大学等と連携した講座の開催や出前授業 など



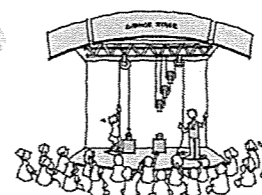
館外まで広がる
活動の展開

- 例) 中央公園の水辺空間等を活用した自然探索
- 例) ファミリープールエリアとの共通イベントの開催 など



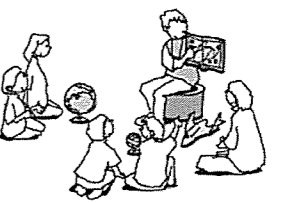
学校教育と連携した
活動の展開

- 例) 学校向けの展示解説ガイドツアーの実施
- 例) 展示ワークシート、ガイドブックの作成 など



こども図書館と
連携した活動の展開

- 例) 両施設を子どもたちが気軽に行き来できる空間の整備
- 例) 科学絵本の読み聞かせとその絵本に関連する実験 など



5 スケジュール

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
展示リニューアル	基本構想	基本計画	基本・実施設計	展示製作・工事		
(参考) 耐震・長寿命化改修			基本・実施設計		改修工事	

リニューアル